

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公表特許公報 (A)

(11)特許出願公表番号

特表2002-543357

(P2002-543357A)

(43)公表日 平成14年12月17日 (2002.12.17)

(51) Int.Cl.
F 16 C 33/78
41/00

識別記号

F I
F 16 C 33/78
41/00

テマコト[®] (参考)
Z 3 J 0 1 6

審査請求 未請求 予備審査請求 有 (全 22 頁)

(21)出願番号 特願2000-615825(P2000-615825)
(86) (22)出願日 平成12年4月18日 (2000.4.18)
(85)翻訳文提出日 平成13年10月25日 (2001.10.25)
(86)国際出願番号 PCT/FR00/00996
(87)国際公開番号 WO00/67038
(87)国際公開日 平成12年11月9日 (2000.11.9)
(31)優先権主張番号 99/05376
(32)優先日 平成11年4月28日 (1999.4.28)
(33)優先権主張国 フランス (FR)
(81)指定国 EP(AT, BE, CH, CY, DE, DK, ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE), BR, CA, CZ, JP, US

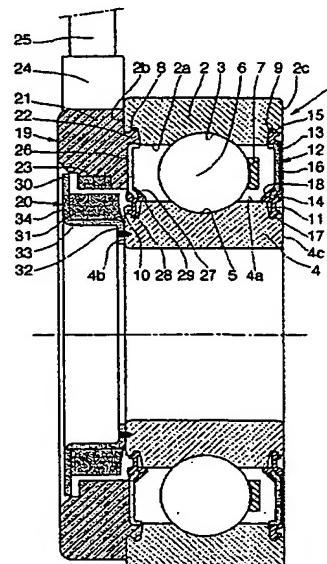
(71)出願人 エスケイエフ フランス
SKF FRANCE
フランス国、92142 クラマー スデ、ア
ブニュ レオマー 8
(72)発明者 メッサージ、オリビエ
フランス国、エフ37000 トゥール、アベ
ニュー ミラボー 32
(72)発明者 ランドリーヴ、フランク
フランス国、エフ37230 フォンデット、
ラ ブッテ (番地なし)
(74)代理人 弁理士 藤岡 徹

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 ころがり軸受装置

(57)【要約】

外輪(2)と、内輪(4)と、内輪(2)と外輪(4)の二つの軌道面(3, 5)の間に配された少なくとも一列の転動体(6)と、内輪(2)と外輪(4)との間のシール手段(12)と、両軌道輪の一方により支持される非回転センサユニット(19)と他方の軌道輪によって支持される回転可能なエンコーダ要素(20)とを有するデータセンサ組立体と備えている。エンコーダの能動部と転動体との間の軸方向領域で回転軌道輪と協働することにより軸受の内側から上記組立体を隔離するようデータセンサ組立体の側に追加シール手段が設けられている。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 外輪（2）と、内輪（4）と、内外輪の二つの軌道面の間に配された少なくとも一列の転動体（6）と、内外輪間のシール手段と、軸受の非回転軌道輪により支持されるセンサユニット（19）と環状サポート及び能動部を有するエンコーダ要素（20）とを有する情報センサ組立体とを備え、上記エンコーダ要素は環状サポートにて回転軌道輪に組み込まれ、エンコーダの能動部と転動体との間の軸方向領域で回転軌道輪と協働することにより軸受の内側から上記組立体を隔離する追加シール手段が情報センサ組立体側に設けられているものにおいて、エンコーダ要素の環状サポートは回転軌道輪の外側ラジアル面に接するラジアル部をもった補強体（30）を有し、エンコーダ要素の能動部は回転軌道輪の軸方向外側に配置されていることを特徴とするころがり軸受装置。

【請求項 2】 エンコーダ要素の補強体のラジアル部は回転軌道輪の外側ラジアル面に溶接によって取り付けられることとする請求項 1 に記載のころがり軸受装置。

【請求項 3】 円筒部がラジアル部と接合されて回転軌道輪の外方へ軸方向に延出し、該円筒部がエンコーダの能動部を支持していることとする請求項 1 又は請求項 2 に記載のころがり軸受装置。

【請求項 4】 エンコーダ要素の補強体は、ラジアル部に接続し回転軌道輪の内方へ軸方向に延びる第二円筒部を有し、該第二円筒部が回転軌道輪の円筒支持面の上に組まれていることとする請求項 1 ないし請求項 3 のうちのいずれかに記載のころがり軸受装置。

【請求項 5】 センサユニットが取り付けられている軌道輪によって支持されるシール（12）を有し、エンコーダが取り付けられている軌道輪と上記シールが接触していることとする請求項 1 ないし請求項 4 のうちのいずれかに記載のころがり軸受装置。

【請求項 6】 追加シール手段と、反対側に取り付けられてセンサユニットが取り付けられている軌道輪によって支持されているシールとが、それぞれ、少なくとも一つのシールリップを有し、両シールリップが同一形状であることとする請求項 1 ないし請求項 5 のうちのいずれかに記載のころがり軸受装置。

【請求項 7】 追加シール手段と、反対側に取り付けられてセンサユニットが取り付けられている軌道輪によって支持されているシールとが、それぞれ、回転軌道輪の支持面と協働し、両支持面が同一形状となっていることとする請求項 1ないし請求項 6 のうちのいずれかに記載のころがり軸受装置。

【請求項 8】 追加シール手段と、反対側に取り付けられてセンサユニットが取り付けられている軌道輪によって支持されているシールとが、それぞれ、補強体（13, 26）を有し、両補強体が同一形状であることとする請求項 6 又は請求項 7 に記載のころがり軸受装置。

【請求項 9】 センサユニットが取り付けられている軌道輪が二つの環状溝（8, 9）を有し、それぞれ上記軌道輪の側部に形成されて一方がセンサユニットをして他方がシールを保持していることとする請求項 1ないし請求項 8 のうちのいずれかに記載のころがり軸受装置。

【請求項 10】 追加シール手段がセンサユニットによって支持されていることとする請求項 1ないし請求項 9 のうちのいずれかに記載のころがり軸受装置。

【請求項 11】 追加シール手段はセンサユニットに取り付けられていることとする請求項 10 に記載のころがり軸受装置。

【請求項 12】 追加シール手段は一体をなすようにセンサユニットのラジアル延長部を有していることとする請求項 1ないし請求項 10 のうちのいずれかに記載のころがり軸受装置。

【請求項 13】 追加シール手段は軸受の非回転軌道輪によって支持されていることとする請求項 1ないし請求項 8 のうちのいずれかに記載のころがり軸受装置。

【請求項 14】 センサユニットが取り付けられている軌道輪は、二つの環状溝を有し、両者が軌道輪の側部に位置し、一方がセンサユニットに対して反対側でシールを保持し他方の溝が追加シール手段を保持していることとする請求項 13 に記載のころがり軸受装置。

【請求項 15】 追加シール手段は、センサユニットと反対側にて、軸受の非回転軌道輪により支持されているシールと同一のシールを有していることとす

る請求項 1 4 に記載のころがり軸受装置。

【請求項 1 6】 エンコーダの補強体は、能動部を支持している円筒部に接続しセンサユニットの方に向いている第二ラジアル部を有し、狭間隙を形成することにより保護していることとする請求項 1 ないし請求項 1 5 のうちのいずれかに記載のころがり軸受装置。

【請求項 1 7】 外輪と内輪は転動体の中心を通る半径面に対して対称であることとする請求項 1 ないし請求項 1 6 のうちのいずれかに記載のころがり軸受装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

<発明の属する技術分野>

本発明は、角位置、回転方向、速度そして角速度等の回転パラメータを検知するための組立体を備えた情報センサをもつころがり軸受の分野に関する。

【0002】

<従来の技術>

情報センサをもつこののようなころがり軸受は、例えば、電動モータに用いられる。

【0003】

センサユニットとエンコーダ要素を有する検知組立体は、モータの制御系に必要なすべての情報、特に回転速度そしてロータの極に対するステータの極の位置についての情報をもたらす。

【0004】

情報センサを有するこの種のころがり軸受では、センサ付軸受の非回転軌道輪により保持されたユニットに配置され、一方、軸受の回転軌道輪により保持されたエンコーダ要素はセンサの感知部の前を通過回転して、これと協働して、回転要素の回転に対応した信号を発生し、例えば、センサ・エンコーダ組立体は磁気形式あるいはこれに代えて光学形式が可能である。

【0005】

電動モータには、剛性ころがり軸受形式のころがり軸受が広く用いられている。これらは断面が曲状をなす二つの軌道面の間に配された一列の玉をもつ軸受である。保持器は周方向で玉を等間隔に保つ。軸受の両側部にはシールが取り付けられていて、軸受内への汚染物質の侵入を防止しそして潤滑剤を軸受内に保持する。

【0006】

シールは、通常、該シールが取り付けられている軌道輪との間で静的シールそして他の軌道輪との間で摺接する動的シールを形成するように弾性材料（ゴム、エラストマ等）でコーティングされた金属の補強体を有している。シールを両軌

道輪の一方に固定する機能を有する静的シールは、環状リップの形態もしくはシールの補強体の周部に関して半径方向に膨出する形態をなしていることが多い。シールは、軌道輪、多くの場合外輪に形成された環状溝へ上記環状の膨出部を圧入することにより固定される。

【0007】

動的シールは、軸受の他方の軌道輪、多くの場合内輪に、軌道面と軌道輪のラジアル側面との間の支持面と摺接する環状の一つもしくは複数のリップの形態をなしている。

【0008】

F R 2 6 7 8 3 2 9 の文献は、シールされたころがり軸受に取り付けられた情報センサを設置するシールを開示している。この文献によると、内輪は側面に隣接する内円筒支持面を有し、金属の補強体の一部に合成樹脂で作られエンコーダを形成するモールドがなされた上記補強体が圧入取付けされている。外輪は、エンコーダと同じ側で軸方向にて側面に隣接する環状溝を有し、金属の補強体との溝に取り付けられるように該溝と合致する形の環状の膨出部をもつ合成樹脂から作られた部分とを備えたセンサユニットがシール状態で上記溝に取付けられている。

【0009】

<発明が解決しようとする課題>

しかしながら、この種のセットは、両シールの動的シールリップの摺動面について、同じ形状そして寸法をもつ支持面とすることはできない。問題は、検知システム側で、利用できる軸方向空間が非常に狭いという理由で、エンコーダ要素が回転内輪に形成された短い円筒支持面の上に組まれ、エンコーダの金属製補強体を支持するセンサユニットからシールのリップが発しているということである。内輪は、したがって、この応用例のために特別に設計し加工されねばならず、回転パラメータの計測の手段を有していない「I S O」シリーズのシール付ころがり軸受に広く用いられ量産される安価な標準軌道輪の使用ができなくしている。

【0010】

さらには、金属シートの補強体に対してリップを摺接することによって動的シールを得ることが、特定の場合に必要とされる高レベルのシール性をもたらす非常に複雑な形状の動的シールの使用を困難としている。これに加え、シールリップと接触する補強体の表面は、一つの支持面から他の支持面へ或る程度広がる幾何的形状となることがある。したがって、この範囲で軸受の内部から外部へ潤滑剤が漏出する虞れがある。最後に、エンコーダとセンサとの間の隙間は、軸受の潤滑剤に対して保護されず、光学的センサの使用が許容されないことが一部の場合に生ずる。

【0011】

今や、軸受寿命の理由上、特に比較的高温で高速における適用例において、最小の摩擦のもとで、軸受は軸受に当初封入されたグリースを保持できる効果的なシールを有していることが重要である。

【0012】

本発明は、かかる欠点を解消することを目的としている。

【0013】

又、本発明は、高レベルのシールを有し、経済的に製造できる検知手段付ころがり軸受を提供することを目的としている。

【0014】

<課題を解決するための手段>

本発明によるころがり軸受装置は、外輪と、内輪と、内外輪の二つの軌道面の間に配された少なくとも一列の転動体と、内外輪間のシール手段と、軸受の非回転軌道輪により支持される非回転のセンサユニットと環状サポート及び能動部を有するエンコーダ要素とを有する情報センサ組立体とを備え、上記エンコーダ要素は環状サポートにて回転軌道輪に組み込まれ、エンコーダの能動部は軸方向にて回転軌道輪の外側に配設されている。上記エンコーダの能動部と転動体との間の軸方向領域で回転軌道輪と協働することにより軸受の内側から上記組立体を隔離する追加シール手段が情報センサ組立体側に設けられている。

【0015】

追加シール手段は回転軌道輪の支持面に直接接するようにすることができる。

【〇〇一六】

本発明の一形態では、エンコーダ要素の環状サポートは回転軌道輪の外側ラジアル面に接するラジアル部をもった補強体を有している。

【〇〇一七】

エンコーダ要素の補強体のラジアル部は回転軌道輪の外側ラジアル面に溶接によって取り付けられることができる。

【〇〇一八】

本発明の一形態では、円筒部がラジアル部と接合されて回転軌道輪の外方へ軸方向に延出し、該円筒部がエンコーダの能動部を支持している。

【〇〇一九】

本発明の一形態では、エンコーダ要素の補強体は、ラジアル部に接続し回転軌道輪の内方へ軸方向に延びる第二円筒部を有し、該第二円筒部が回転軌道輪の円筒支持面の上に組まれている。

【〇〇二〇】

有利には、本発明装置は、センサユニットが取り付けられている軌道輪によって支持されるシールを有し、エンコーダが取り付けられている軌道輪と上記シールが接触している。

【〇〇二一】

有利には、追加シール手段と、反対側に取り付けられてセンサユニットが取り付けられている軌道輪によって支持されているシールとが、それぞれ、少なくとも一つのシールリップを有し、両シールリップが同一形状である。

【〇〇二二】

有利には、追加シール手段と、反対側に取り付けられてセンサユニットが取り付けられている軌道輪によって支持されているシールとが、それぞれ、回転軌道輪の支持面と協働し、両支持面が同一形状となっている。

【〇〇二三】

追加シール手段と、反対側に取り付けられてセンサユニットが取り付けられている軌道輪によって支持されているシールとが、それぞれ、補強体を有し、両補強体が同一形状である。

【〇〇24】

有利には、センサユニットが取り付けられている軌道輪が二つの環状溝を有し、それぞれ上記軌道輪の側部に形成されて一方がセンサユニットをそして他方がシールを保持している。

【〇〇25】

本発明の一形態では、追加シール手段がセンサユニットによって支持されている。追加シール手段はセンサユニットに取り付けられているようにすることも、あるいは、一体をなすようにセンサユニットのラジアル延長部を有しているようにすることもできる。追加シール手段は軸受の非回転軌道輪によって支持されているようにすることもできる。

【〇〇26】

有利には、センサユニットが取り付けられている軌道輪は、二つの環状溝を有し、両者が軌道輪の側部に位置し、一方がセンサユニットに対して反対側でシールを保持し他方の溝が追加シール手段を保持する。追加シール手段は、センサユニットと反対側にて、軸受の非回転軌道輪により支持されているシールと同一のシールを有している。

【〇〇27】

本発明の一形態では、エンコーダの補強体は、能動部を支持している円筒部に接続しセンサユニットの方に向いている第二ラジアル部を有し、狭間隙を形成することにより保護している。

【〇〇28】

本発明の一形態では、外輪と内輪は転動体の中心を通る半径面に対して対称である。

【〇〇29】

かくして、エンコーダは回転軌道輪に組み込まれシールの支持面から完全に離れる。したがって、良好な動的シール、例えば、検知手段を有していないシールと同等のシールを得ることが可能となる。又、この構成は、標準の軌道輪、標準のシール補強体そして標準のシールリップを用いることを可能とし、製造あるいは購入そして在庫管理においてきわめて多大な節約をもたらす。

【0030】

<発明の実施の形態>

本発明は、非限定的な例であり添付図面に示された一連の実施形態についての詳細な説明を通読することにより、より良く理解でき他の有利性も明らかになるであろう。

【0031】

図1及び図2に見られるように、軸受1は、円弦状断面の軌道3が内径面2aに形成された外輪2、円弧状断面の軌道5が外径面4aに形成された内輪4、そして外輪2の軌道3と内輪4の軌道5との間に配された、この例では玉である一列の転動体6を有している。一列の転動体6は合成樹脂製の保持器7により保持されており、該保持器7は一列の転動体6の一側方にて上記外輪2と内輪4との間に位置する環状部と、上記外輪2と内輪4との間で隣接転動体同士間に位置する離間部とを有している。

【0032】

外輪2は対向せる二つのラジアル側面2b、2cをも有している。転動体6の中心を通るラジアル面に対して対称な二つの溝8、9が外輪2の内径面2aに形成されており、溝8は側面2bに近接し、溝9は側面2cに近接している。

【0033】

内輪4も、また、上記側面2b、2cとそれぞれ同じラジアル面にラジアル側面4b、4cが形成されている。二つの環状溝10と11が内輪4の外径面4aに形成されていて、側面4bそして側面4cにそれぞれ近接している。軸方向では、溝10は溝8と同じレベルにある。同じことが溝9に関して溝11にも言える。

【0034】

全体として符号12が付されているシール部材は外輪2に固着されていて、内輪4と摺接する。シール部材12は、概ね円板状をなす剛性金属補強体13を有し、短い円筒状もしくは曲状のリムを半径方向両端側に有してその剛性を高めている。上記補強体13には、例えばゴムのような弾性部14がモールドされている。弾性部14は環状で、その大径端側に、上記溝9へ圧入される膨出部15を

有している。弾性部14は薄層16によって内方に延びて補強体13を覆っており、側面2cそして4cのラジアル面と、多少なりと、平面をなしている。最後に、弾性部14は、その小径端側に、内輪4の溝11の底面に摺動する第一シールリップ17と、溝11にきわめて近接して内輪4の外径面4aに摺動する第二シールリップ18とを有している。

【0035】

このシール部材12は、検知手段無しの軸受では標準タイプであって、リップ17, 18の複雑な形状によって、外部からの汚染物の侵入に対してそして軸受1内に充填された潤滑油あるいはグリースの漏出に対して、高いレベルのシールを保証する。

【0036】

軸受1の外側には、回転パラメータを検知する組立体が取り付けられており、センサ組立体19とエンコーダ組立体20を有している。

【0037】

センサ組立体は、全体形状が環状をなす、例えばポリアミドを射出成型して得られた、合成樹脂製のセンサホルダユニット21を有し、外輪2の側面2bと接触しており、外輪2の溝8へ突入する膨出部22が設けられている。膨出部22はセンサホルダユニット21を上記外輪へ取り付け、センサホルダ21と外輪2との間で静的シールをもたらす。センサ23はセンサホルダユニット21の内径面に配置されている。電線25のための出力部24は半径方向で外方に延出しており、センサ組立体19から出る電線25の位置づけを容易にしている。勿論、電線25は図示していない方法でセンサ23に接続されていてもよい。

【0038】

センサ組立体19は、シール部材12の補強体13と同一形状の補強体26をも有していて、転動体6の中心を通るラジアル面に対して対称に配設されている。補強体26の小径端側は、弾性材でモールドされて作られたシール27を支持している。シール27はリップ17と同一のリップ28と、シール部材12のリップ18と同一のリップ29とを有している。

【0039】

換言すると、シール27は内輪4に近い領域におけるシール部材12の弾性部14のものと類似した形のものとなっている。リップ28は溝10の底部と、適合した形で、接触しており、一方、シールリップ29は溝10に近い位置で外径面4aに接触している。こうして、軸受1は両側部で同じようにして動的にシールされており、シールはシールリップの形状によって良好になれることが理解できる。

【0040】

エンコーダ組立体20は、金属製の環状補強体30と、能動部31とを有している。

【0041】

補強体30は、内輪4の側面4bと接触し、例えばスポット溶接によって内輪に溶着された第一ラジアル部32と、該第一ラジアル部32の大径端側から発して内輪4から軸方向に離れるように延びる円筒部33と、第一ラジアル部32と反対側となる円筒部33の対向端から発して外方に延びる第二ラジアル部34とを有している。第二ラジアル部34はセンサホルダユニット21に近接するまで延びていて、センサホルダユニット21と相俟って狭間隙を形成し、十分なシールをしている。

【0042】

エンコーダ組立体20の能動部31は、円筒部33の外面と、内輪4側にある第二ラジアル部34の面との上に取り付けられている。能動部31はエンコーダ23とラジアル隙間をもって対向している。センサ23とエンコーダの能動部31は、一方の側では補強体30の第二ラジアル部34によって、そして他方の側ではセンサ組立体19の部分を形成するシール27によって、軸方向で限界づけられている空間内に位置している。これらの要素は、かくして、外部からの汚染物質の侵入から、そして転動体6の領域から潤滑剤が侵入してくることに対して保護される。

【0043】

補強体26そして取り付けられたリップ28、29を有する追加シール手段はきわめて良好なシールを確保し、したがって潤滑剤を転動体周辺に保持すること

を可能とし、特に、高温のもとでの運転時の軸受 1 の寿命を長くすることができる。外輪 2 と内輪 4 は標準の形式のものであって、したがって安価である。補強体 13 と 26 は標準型と同じであり、生産、保管そして使用されるべき部品の種類を少なく抑えることができる。シール 27 の形状はシール部材 12 の小径部と同一であり、モールドに関し単純化を可能とする。

【0044】

図 2 は軸受 1 の製造のための一つの可能な方法を示している。シール部材 12 とセンサ組立体 19 を備えた軸受 1 はマンドレル 35 の上に組まれている。エンコーダ組立体 20 は、マンドレル 35 上にあって、永久取付位置である内輪 4 の側面 4b と同じ側の第一ラジアル部 32 へ適切な方向に向いて配置されている。環状をなす略矩形断面形状の芯出し部材 36 は、軸方向にいくつかの貫通孔 37 が形成されていて、マンドレル 35 と補強体 30 の円筒部 33との間に位置している。軸受 1 とエンコーダ組立体 20 は、かくして、マンドレル 35 という一つの共通部材上で芯出しされ、したがって同心となる。

【0045】

矢印 38 で示されるレーザビームが、貫通孔 37 を通して、補強体 30 の第一ラジアル部 32 と内輪 4 との間に、符号 39 で示されるスポット溶接をもたらす。溶接は軌道 5 から比較的離れている位置でなされるので変形はもたらさない。エンコーダ組立体 20 は、かくして、軸受 1 の内輪 4 に対して完全に芯出しされ、この芯出しがスポット溶接 39 によって永久的に維持される。芯出し部材 36 とマンドレル 35 は、かかる後に引き抜かれる。

【0046】

本発明によれば、当初シールを備えるように設計された外輪 2 の溝 8 は標準型で、標準のシール部材 12 が取り付けられる溝 9 と同じである。したがって、この溝 8 の加工は従来の検知手段無しの軸受と比較して特殊な工具を要するものではない。外輪 2 は、従来のころがり軸受の軌道輪と同じくして経済的に作れる。

【0047】

シール 27 とシール部材 12 の弾性部 14 とに用いられる材料は完全に同じで良く、例えばニトリルである。これらの二つのシール手段の動的シールは高度な

保護の形式である。狭間隙と摺動部との組み合わせによるので、効果的なシールと低摩擦を呈し、したがってエネルギー損失を抑制し軸受1の発熱を防止する。この形式のシールは剛性単列玉軸受形式の検知手段無しの軸受に広く用いられている。

【0048】

シールリップとは異なる材料で作られたセンサホルダユニット21は、別途補強体上にモールドされる。センサホルダユニット21は、例えば、ポリアミドで作られている。エンコーダの能動部31はプラスチックをモールド成形して得られるが、この材料は、一つもしくは複数の磁気感知センサの前を通過するように回転する多極リングを形成するように磁化される。

【0049】

図3に示される実施形態は、エンコーダ組立体20の補強体30が第一ラジアル部32の小径端側から内輪4の側面4cに向けて延びる追加円筒部40を有している点を除いて、図1のものと類似している。内輪4は、その内径面4dに上記追加円筒部が圧力嵌めされる円筒支持面41を有している。かくして、エンコーダ組立体20は、前実施形態におけるような溶接でなくて、圧力嵌めによって固着されている。

【0050】

軸受1は軸42の上に組まれている。軸42は、肩部43と、円筒外面44と、そしてワッシャ46とナット47が取り付けられるねじ部45とを有している。内輪4の内径面4dは上記円筒外面44上に組まれている。補強体30の第一ラジアル部32は肩部43と接触しており、一方、補強体30と反対側の内輪4の側面4cはワッシャ46とナット47によって軸方向で正規位置に保持されている。かくして、軸受は、一方の側では肩部43によってそして他方の側ではワッシャ46とナット47によって軸方向に移動不可となっている。内輪4の内径面に形成された円筒支持面41は、圧力嵌めのために、そして補強体30の芯出しのために寄与する。勿論、上記円筒支持面41は半径方向では内径面4dから離れており、補強体30の追加円筒部40が内方に突出しないよう、そして軸42の円筒面44への軸受の組込み時に障害とならないようになっている。

【0051】

図4では、センサホルダユニット21が金属製補強体を有していないこと、その端部21aが軸方向で転動体6に近くそして半径方向で内輪4に近く位置して内輪4の方に延びるラジアルシールリップ48を形成し、溝10の面と接接着していることが理解できる。かくして、シール手段は、センサユニット21と共に、一つで一体的にモールドされた同じ部品を形成する。

【0052】

勿論、これらの実施形態は非限定的である。

【0053】

かくして、本発明の範囲から逸脱することなく、軌道輪に溝を設けることのない固定方法を採用することで、ころがり軸受の非回転軌道輪へセンサユニットが保持でき、上記溝が第一シール12と同じ第二シールの取付けのために用いられることを可能とし、この第二シールは図1ないし4の実施形態におけるセンサユニットに追加シール手段に代えて用いることができる。

【0054】

軸受メーカーがISO範囲と称している従来型の基本的な軸受の部品を用いた情報センサをもったころがり軸受を得ることは、このようにして非常に経済的に可能となる。エンコーダは、シールリップの支持面の領域の外側で、回転軌道輪に取り付けられ、上記領域では標準軌道輪の形を保ち、標準部品をもって経済的なシールを用いることを可能とするが、同時に、完全なシールを保証する複雑な形となる可能性をも残している。情報センサ付軸受は部品を紛失する危険性なく、所定の機械の組立品に最終的に組立時まで、安全に取り扱うことができる。

【図面の簡単な説明】**【図1】**

本発明の第一実施形態によるころがり軸受の軸方向断面図である。

【図2】

軸受の組立段階における図1と同様の図である。

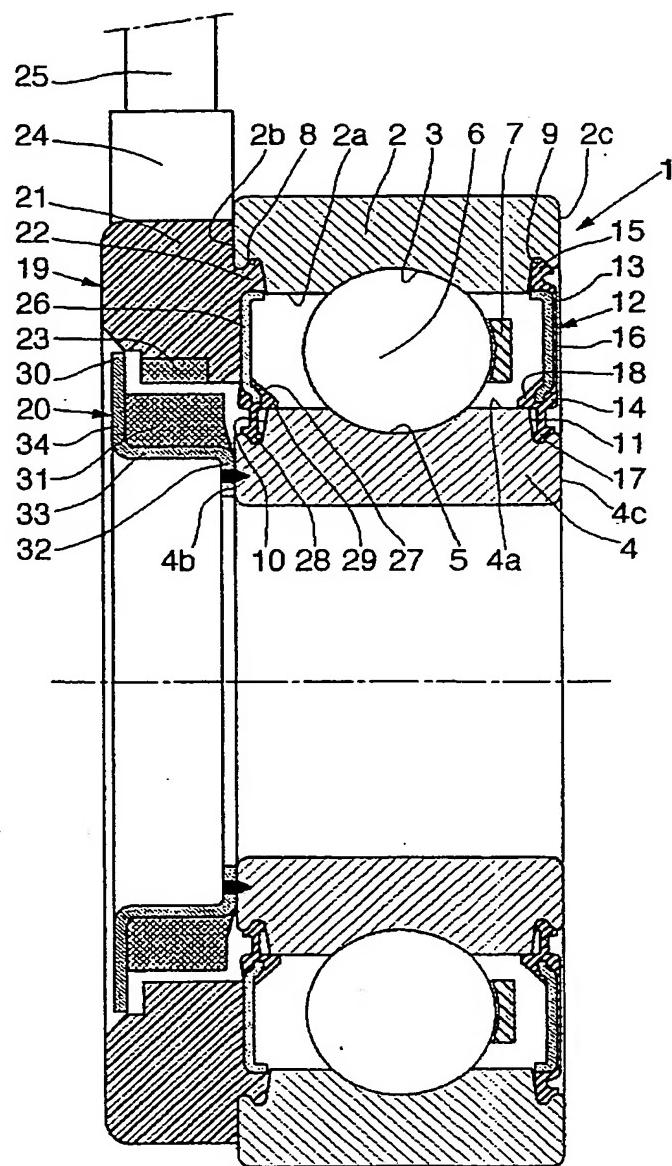
【図3】

本発明の第二実施形態によるころがり軸受の軸方向断面図である。

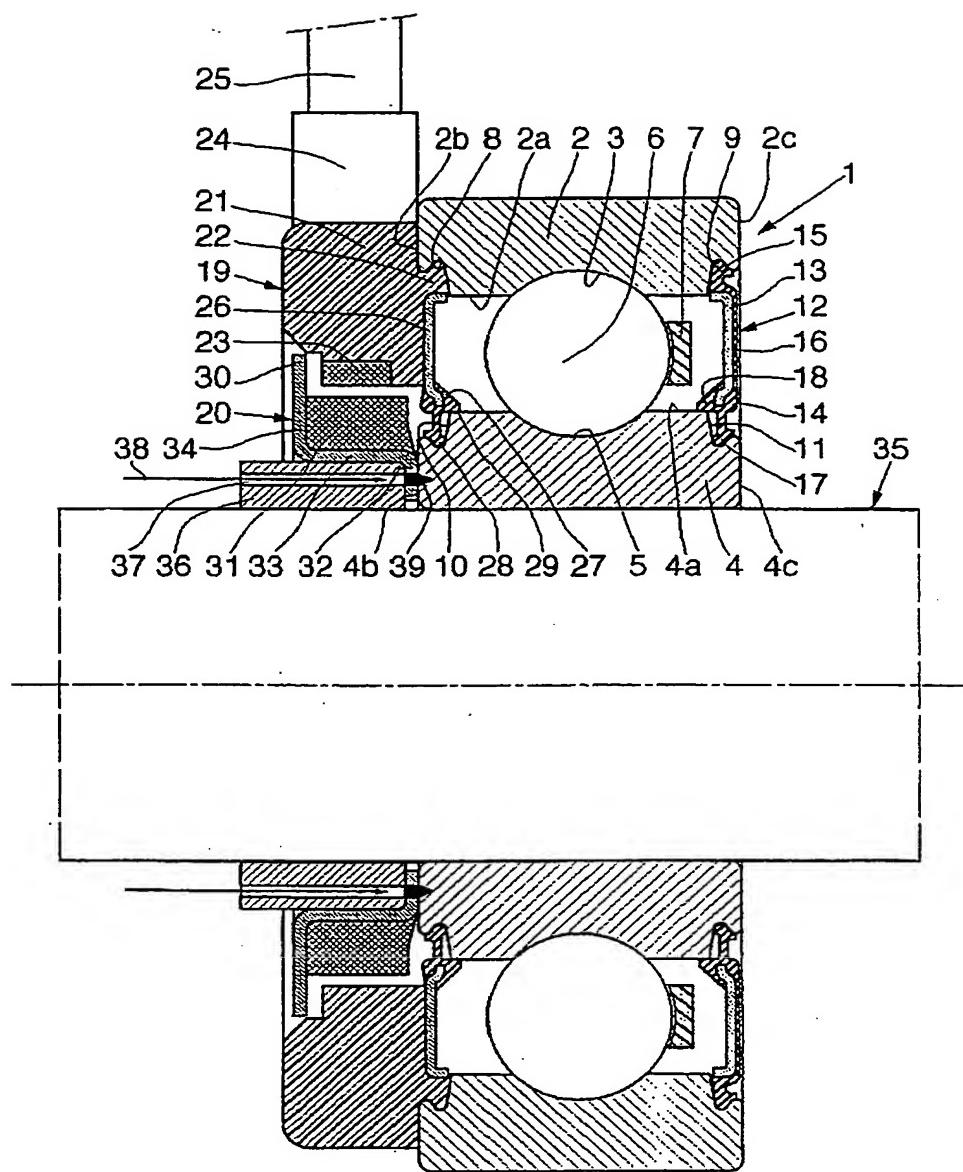
【図4】

本発明の第三実施形態によるころがり軸受の軸方向断面図である。

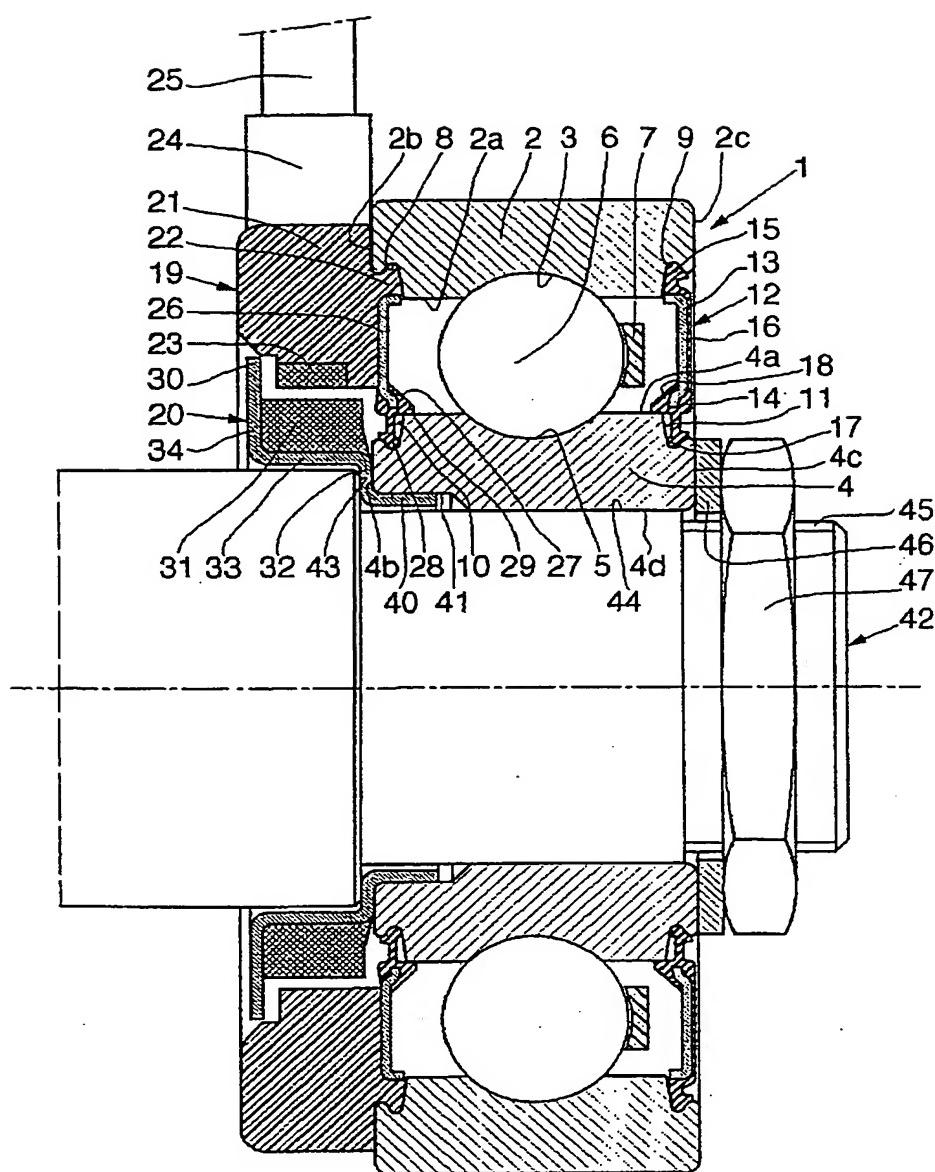
【図1】

FIG.1

【図2】

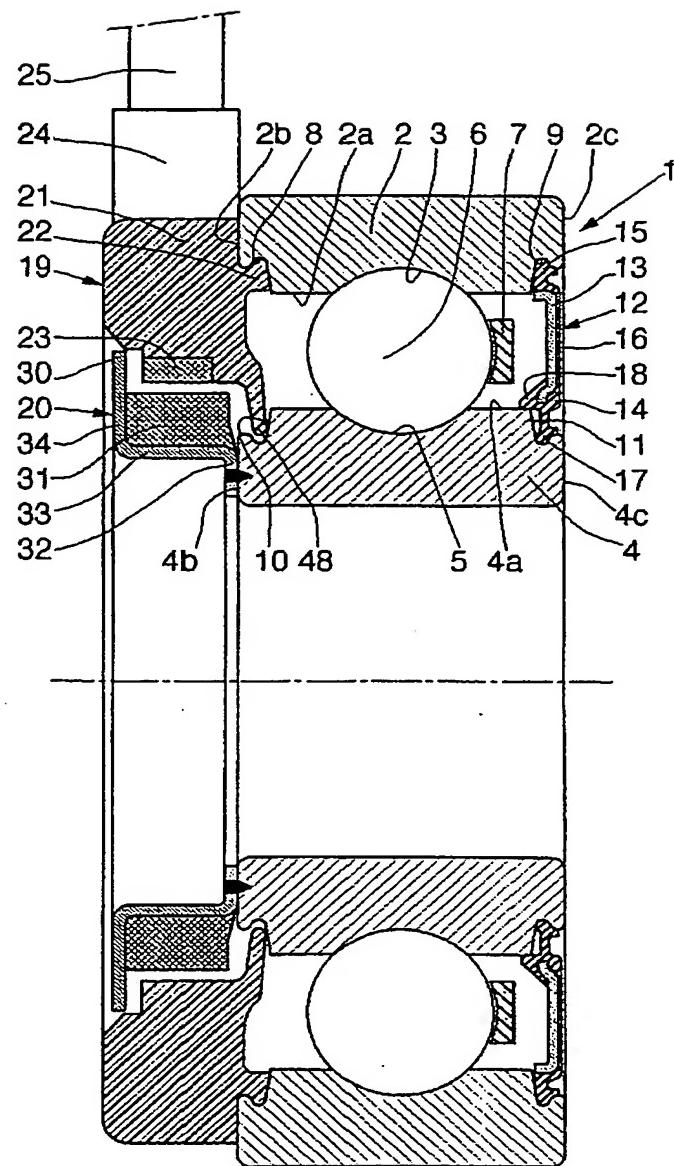
FIG.2

【図3】

FIG.3

【図4】

FIG.4



【國際調查報告】

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

Inte...inal Application No
PCT/FR 00/00996

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER
IPC 7 G01P3/44

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)
IPC 7 G01P

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practical, search terms used)

EPO-Internal

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category *	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	DE 38 09 904 A (SKF GMBH) 5 October 1989 (1989-10-05) column 2, line 21 - line 58; figure 1	1-17
A	EP 0 822 413 A (TIMKEN CO) 4 February 1998 (1998-02-04) column 11, line 2 -column 12, line 10; figures 7-9	1-17
A	EP 0 495 323 A (ROULEMENTS SOC NOUVELLE) 22 July 1992 (1992-07-22) column 3, line 25 - line 45; figure 5	1

Further documents are listed in the continuation of box C.

Patent family members are listed in annex.

* Special categories of cited documents :

- *A* document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
- *E* earlier document but published on or after the international filing date
- *L* document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
- *O* document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
- *P* document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

- *T* later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
- *X* document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
- *Y* document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art.
- *Z* document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search

8 August 2000

Date of mailing of the international search report

17/08/2000

Name and mailing address of the ISA

European Patent Office, P.B. 5818 Patentdienst 2
NL - 2280 HV Rijswijk
Tel. (+31-70) 340-2040, Telex 31 651 epo nl,
Fax: (+31-70) 340-3016

Authorized officer

Nessmann, C

(21)

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

Information on patent family members

Int'l Application No
PCT/FR 00/00996

Patent document cited in search report		Publication date	Patent family member(s)	Publication date
DE 3809904	A	05-10-1989	FR 2629155 A IT 1232592 B JP 1316519 A JP 2614199 B US 4946296 A	29-09-1989 26-02-1992 21-12-1989 28-05-1997 07-08-1990
EP 0822413	A	04-02-1998	US 5893648 A	13-04-1999
EP 0495323	A	22-07-1992	FR 2671592 A DE 69106336 D DE 69106336 T ES 2065650 T	17-07-1992 09-02-1995 27-07-1995 16-02-1995

Form PCT/ISA210 (patent family annex) (July 1992)

フロントページの続き

(72) 発明者 テスコムベ、ミシェル
フランス国、エフ78000 ベルサイユ、ア
ブニュ ド パリ 86
F ターム(参考) 3J016 AA01 BB03